

日本独文学会

秋季研究発表会

2026 年 10 月 17 日（土）・10 月 18 日（日）

第 1 日：14:10 より（受付開始 12:00～）

第 2 日：10:00 より（受付開始 9:00～）

会場 岡山大学津島キャンパス
一般教育棟 A, B, C 棟（受付：C 棟 1 階）
〒700-0083 岡山県岡山市北区津島中 2-1-1
Okayama University, Tsushima Campus, General Education Building A-C
(Empfang: Gebäude C, Erdgeschoss)
https://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access_4.html
E-Mail: tagung2026okayama@jgg.jp

参加費

研究発表会・懇親会ともに

Peatix による事前オンライン決済（10 月 9 日まで）

チケットページ <https://peatix.com/event/5139611>

1. 研究発表会

- ・一般会員：1,500 円（当日払い 2,000 円）
- ・学生会員：1,000 円（当日払い 1,500 円）
 - ・非会員（一般）：2,000 円
 - ・非会員（学生）：1,500 円

2. 懇親会

- ・一般会員および非会員（一般）：6,500 円
- ・学生会員および非会員（学生）：4,000 円

日本独文学会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚 3-34-6 南大塚エースビル 603

Tel./Fax: 03-5950-1147

E-Mail (メールフォーム)： <http://www.jgg.jp/mailform/buero>

第 1 日 10 月 17 日 (土)

開会の挨拶 (14:10～14:20)

A 会場 (A41)

中国・四国支部長 原 千史
会 長 生駒 美喜

シンポジウム I (14:30～17:30)

A 会場 (A41)

神聖ローマ帝国の現存と残影 ——同時代批評からポスト・エンパイアの記憶へ

司会：伊藤 亮平

1. 帝国を語る詩的言語

—ヴァルターの Reichston および Preislied における普遍性と民族性の交錯
伊藤 亮平

2. 13 世紀宮廷叙事詩における傷つく身体としての帝国イメージの現在性

—アンフォルタスとパルチヴァールの信仰と性愛について 渡邊 徳明

3. 中世の記憶と帝国の文化的復権：帝国アカデミー設立をめぐるライプニッツの戦略

山崎 明日香

4. G. W. ライプニッツと F. シュレーゲルとの比較を通して見た J. グリムの言語観

嶋崎 啓

5. フリードリヒ・シュレーゲルのスペインとカトリック中世のイメージ

—『古代と近代文学の歴史』を手がかりに 幅野 民生

シンポジウム II (14:30～17:30)

B 会場 (B41)

形式意味論から見えてくるドイツ語と日本語の共通点・相違点

司会：小林 大志

1. ドイツ語の接続法 II 式の多様な用法の形式意味論による分析：日本語との対照を交えて

伊藤 克将

2. 談話助詞の生起を動機づける語用論的原理とは何か：日本語とドイツ語の観察を通じて 井原 駿
3. 非時間的副詞文の時制解釈：ドイツ語 damit 文・日本語タメ文への態度的アプローチ 岡野 伸哉
4. 日本語・ドイツ語の焦点辞が示す否定極性について 水谷 謙太

口頭発表：文学、文化・社会 I (14:30～17:05)

C 会場 (A37)

司会：久保田 聡・原 千史

1. Verschmelzende Welten, Zeiten, Realitäten. Erzählerische Durchdringungen der Dimensionen bei „Air“ (2025) und früheren Prosawerken Christian Krachts Andreas Wistoff
2. Entstellung und entstellen. Zur grammatischen Differenz eines Wortes bei Freud und Benjamin Robin Weichert
3. 個人語 (Individualsprache) の孤独
—マウトナーの言語批判とホーフマンスタール『チャンドス書簡』における言語的閉域 松尾 匠
4. A.デーブリーン『最初の回顧』における過去のトラウマ体験を語ること 鈴木 佑紀乃

口頭発表：語学、ドイツ語教育 I (14:30～17:05)

D 会場 (A36)

司会：筒井 友弥・田中 雅敏

1. ドイツ語における自動詞構文による拡張：構文文法的アプローチ 宮下 博幸
2. ドイツ語学習者の L2-WTC とコミュニケーションスタイルとの関係性 山田 真実

~~3. Was Studierende von Effi Briest lernen können – Literarische Texte im handlungsorientierten Unterricht Anette Schilling~~

10月18日 (日) E会場に変更。第4発表は16時30分開始

Verlegt auf Sonntag, den 18. Oktober, Raum E. Der 4. Vortrag beginnt um 16:30 Uhr.

4. Lernerzentrierung im Digital Game-based Language Learning: Eine Bestandsaufnahme am Beispiel der DaF-Lernspiele des Goethe-Instituts Joachim Scharloth, Carsten Waychert u. Christoph Petermann

ブース発表（14:30～17:30）

E 会場（A34）

1. Zur Prosodie der Reduplikation im Deutschen Ergebnisse aus dem DAAD-Universität-Projekt „ProsPrag (Prosodie und Pragmatik)“
Miki Ikoma, Yoshiyuki Muroi, Joachim Scharloth,
Ulrike Freywald u. Horst Simon
2. Dynamic Assessment in mündlichen DaF-Prüfungen an japanischen
Universitäten – Konzeption einer Pilotstudie und erste Erkenntnisse eines
aktionsforschungsorientierten Promotionsprojekts Nina Kanematsu

ポスター発表（13:00～14:30）

（ポスターは期間中を通じて掲出されています）

F 会場（A31）

1. Emotionen und Fremdsprachenerwerb - Chancen und Grenzen der
Aufgabenstellung Maria Gabriela Schmidt
2. ドイツ語の評価形容詞 schön と gut の補文選択と trope 制限：zu 不定詞句
への拡張可能性 信國 萌

ドイツ語教育部会 総会（13:15～14:00）

（B32）

DaF-Café（14:30～17:30）

（C31、C32）

懇 親 会（18:00～20:00）

会場：ピーチユニオン 4階

会費：6,500 円（学生は 4,000 円）

※懇親会費の支払い方法については、プログラム 1 頁目を御確認ください。

第2日 10月18日(日)

シンポジウムⅢ(10:00~13:00)

A会場(A41)

中・東欧と共鳴するドイツ文学

——ボブロフスキーの「サルマチア」の地詩学を手がかりにして

司会：関口 裕昭

コメンテーター：井上 暁子

1. ボブロフスキーとリトアニア

関口 裕昭

2. 故郷喪失者としての想起

—グラスとボブロフスキーの場合

依岡 隆児

3. ドイツ語圏におけるペトル・ベズルチの受容

—ルドルフ・フクスとヨハネス・ボロフスキーを中心に

阿部 賢一

4. 「サルマチア」の功罪 —ミツキエヴィチ文学を中心に

松尾 梨沙

シンポジウムⅣ(10:00~13:00)

B会場(B41)

Kommunikationsstrategien der politischen Rechten in Deutschland

司会：Joachim Scharloth

1. Vernunft gegen Wahnsinn: Konstruktion einer polarisierten Gesellschaft durch multimodale Metaphern

Christina Liemann

2. Das bessere Deutschland? Japan-Bilder in der Neuen Rechten und ihre politischen Implikationen

Christina Liemann u. Joachim Scharloth

3. „Rassismus ohne Rasse?“ - Invektivität als Modalität der Neuen Rechten am Beispiel der Rassifizierung von Muslimen

Joachim Scharloth

4. Entpolitisierung und Ideologisierung: Die soft-autoritäre Geschichtspolitik der Neuen Rechten

Hagen Steinhauer

5. Hassrede: Didaktische Zugänge im DaF-Unterricht an japanischen Hochschulen

Christoph Petermann u. Carsten Waychert

口頭発表：文学、文化・社会Ⅱ(10:00~11:55)

C 会場 (A37)

司会：松尾 博史・小崎 肇

1. 労働者論三部作に見るエルンスト・ユンガーの対抗近代主義 野上 俊彦
2. ヴォルフガング・ヒルビッヒ『投影』におけるイデオロギーのふたつの姿
石崎 知己
3. ゲルト・ホフマン『映画をかたる男』における無声映画の参照と語りの技法の関連
白井 史人

口頭発表：文学、文化・社会 III (10:00～11:55)

D 会場 (A36)

司会：小林 英起子・山崎 泰孝

1. ソロモンのトポスについて：近世ドイツ語圏の算術書を手掛かりに
大林 侑平
2. ゲーテ『親和力』における風景描写
—叙述空間への没入と距離をめぐって 綾戸 啓太
3. ベッティ・パオリのフュトンにおける「社会的」という語の用法とその革新性について
杉山 東洋

口頭発表：文学、文化・社会 IV (10:00～12:35)

E 会場 (A34)

司会：高池 久隆・土屋 京子

1. 「植民地」の幽霊の現像
—ヴァックヴィッツの家族小説『不可視の地』に関して 徳永 恭子
2. 現実と空想の交錯する場所
—クレメンス・J・ゼッツ『丸いもののもつ慰め』にみる語りの機能
犬飼 彩乃
3. ぼくの部屋、父の防空壕、母の壁
—ファルク・リヒターの〈家族劇〉におけるオートフィクショナルな語り
真田 健司
4. Was Studierende von *Effi Briest* lernen können – Literarische Texte im handlungsorientierten Unterricht
Anette Schilling

閉会の挨拶（13:00～13:05）

A 会場（A41）

岡山大学 由比 俊行

研究発表会期間中、上記のプログラムに加えて、書店・出版社等による書籍展示が行われます。

ハラスメント対策ワーキンググループよりご案内
ハラスメント対策 WG ブース（1 日目 14:30～2 日目閉会まで）

（B31）

学会では現在、ハラスメント対策 WG を立ち上げ、ハラスメント対応の制度づくりを進めています。情報共有とディスカッションのため、今後、春・秋の研究発表会において WG ブースを設けます。その際の参考にさせていただくため、「ハラスメントに関する目安箱」を Google Form で設置いたします。

<https://forms.gle/78ckMAPv67TAn5mk9>

ハラスメントおよび差別は、人間の尊厳にかかわる問題です。日本独文学会は、いかなるハラスメントも差別も許容しません。学会のハラスメント・差別防止に関する取り組みについては、下記ページをご覧ください。

<https://www.jgg.jp/mod/page/view.php?id=648>

会場のご案内



①JR 岡山駅からタクシー

- ・岡山駅西口（運動公園口）2F タクシー乗り場
- ・所要時間：約 10～15 分
- ・「岡山大学津島キャンパスの大学会館前まで」とお伝えください。

②JR 岡山駅から岡電バス

- ・岡山駅西口（運動公園口）バスターミナル 22 番乗り場から【47 系統】「岡山理科大学」行に乗車、「岡大西門」で下車。
- ・所要時間：約 10～15 分

岡電バス時刻表 <https://qr.paps.jp/tfLuc>

③岡山空港からリムジンバス

- ・岡山空港 2 番乗り場から「岡山駅運動公園口（西口）」行に乗車、「岡山大学筋」で下車。
- ・所要時間：空港から約 25 分、「岡山大学筋」から徒歩約 15 分。

リムジンバス時刻表 <https://qr.paps.jp/7AfKf>

Anfahrt zum Tagungsort

1. Vom Bahnhof Okayama mit dem Taxi

- Taxistand: Westausgang (Undōkōen-guchi), 1. Etage (2F).
- Fahrzeit: ca. 10-15 Minuten.
- Bitte sagen Sie dem Fahrer: „Okayama Daigaku, Tsushima Campus, Daigaku-Kaikan“.

2. Vom Bahnhof Okayama mit dem Bus

- Vom Bussteig 22 am Westausgang (Undōkōen-guchi) mit der Linie 47 Richtung „Okayama Rikadaigaku (Okayama University of Science)“ bis zur Haltestelle „Okadai Nishimon“.
- Fahrzeit: ca. 10-15 Minuten.

3. Vom Flughafen Okayama mit dem Bus

- Vom Bussteig 2 mit dem Bus Richtung „Okayama Station West Exit (Undōkōen-guchi)“ bis zur Haltestelle „Okayama Daigaku-suji“.
- Fahrzeit: ca. 25 Minuten vom Flughafen; von der Haltestelle „Okayama Daigaku-suji“ ca. 15 Minuten zu Fuß.

岡山大学津島キャンパス (Okayama University, Tsushima Campus)

